

第13回駿河海岸保全検討委員会 議事要旨

日 時：令和4年3月2日(水) 13:30～14:30

場 所：Web 会議室

出席者： 高知工科大学	佐藤教授
名古屋大学大学院	水谷教授
静岡大学	原田准教授
国土技術政策総合研究所	加藤海岸研究室長
静岡県交通基盤部	光信河川砂防局長
中部地方整備局河川部	野々村河川調査官
中部地方整備局静岡河川事務所	立松事務所長

< 議事 >

○資料1：粘り強い海岸堤防（住吉工区）の模型実験について

- ・C区間の実験では薄い材料（平板）を用いており、実際の矢板のU型（波型）と条件が異なるものとなっているが、模型条件は実際に施工されるものと比較して厳しい条件となっているため、現地では実験と比較して洗掘が進みにくいと考えられる。
- ・C区間の3回の実験の結果のバラツキを考慮しても、十分粘り強さが確保されているため、現地で発生する不確実な状況を考慮しても、今回提案されている構造が安全と判断できる。
- ・破堤遅延時間3～5分を確保するという一連区間での目標がある中、A区間-3の現況構造で粘り強さに課題があることを確認したことにより、天端を補強し直立堤と一体化させるといった確実に粘り強さを確保できる対策を考えていく検討方針でよいと考える。
- ・A区間-3の陸間は他機関の管轄となっているが、ここが改修されない限り、一連で整備なされないと効果が発揮できないので、管轄機関と情報共有し、連携して事業にあたっていくこと。

○資料2：新たなモニタリング手法の導入検討について

- ・CCTVカメラについて角度を振ることができれば、1つのカメラで広い範囲の状況を把握することが可能と考える。動作方法等を確認した上で対応可能か検討して頂きたい。
- ・CCTVカメラでの撮影画像が日々更新されるようだか、保存容量を増やせば、より長期的な汀線の状況を確認できるので、ご検討頂きたい。
- ・2022年の航空写真では大井川の河口砂州の形状が大きく海側に突出しているが、2019年ではみられないため、大きな出水があって土砂供給があった等の状況が発生した可能性がある。このような土砂供給状況についても把握して頂きたい。

以上